



北海盆おどりの櫓（三笠市）

道経連会報 No.267 CONTENTS

巻頭言	1
「新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要望」について	2
視点	7
青函物流プロジェクトチーム報告書（概要）	16
「2021年度国の施策及び予算に関する要望（政府予算要望）」についての会員意見募集結果と提出意見への対応方針について	21
常任理事会レポート	22
委員会等の動き	22
会員企業紹介	23
会員の異動	26
新会員企業紹介	28
グループ活動報告	30
北海道の経済動向	36
人事・労務相談日	38
事務局人事	39
道経連カレンダー	39
Face to Face	40
わがまち紹介（シリーズ37）	41



北海道経済連合会 常任理事

岡 博章

（株）日立製作所 北海道支社長

「プロスポーツビジネスに思う」

令和初となる「第95回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会」ファイナルラウンド決勝戦が1月に2020東京五輪バスケットボール会場となる「さいたまスーパーアリーナ」で開催された。5年前「日立サンロッカーズ東京」が初優勝した時はチームの副部長としてベンチ入りしたが、この時は会社関係者やOBが大いに喜んだ。今回「サンロッカーズ渋谷」がプロクラブとしてBリーグ参入後初となる日本一のタイトルを手にした。今回は会社関係者のみならず、地域やプロスポーツを愛する熱烈なファンがおおいに優勝を喜んだ。

企業スポーツは社員の一体感醸成、企業ブランド向上、地域貢献等を目的に1964年の東京五輪を契機として長らく日本国家のスポーツ全般を支えてきた。しかし1990年代バブル崩壊後、当社を例にしても、女子バレー、女子バスケット、女子ソフトボールなど事業所の減少や集約に伴い撤退・廃部が相次いだ。同時期に日本サッカーリーグはJリーグとしてスタートし野球に続くプロ化立上げに成功した。日本バスケットボールリーグを振り返ると、大手企業の業績不振でスポーツチーム保有の意義も薄れ、2005年にはリーグから退会したチームがBjリーグを立ち上げ2リーグに分裂するなど混迷

が続いた。2016年のBリーグ開幕時には参加チームも地域スポンサーや若手経営者がベンチャー企業としてプロスポーツを運営するなど環境は大きく様変わりしていた。

Bリーグは昨季(2018-19シーズン)B1・B2の36クラブ全事業規模が約220億円、B1平均営業収入9.2億円で収入1位の千葉が約18億円、地元北海道、そして渋谷が約8億円と年々収益力はアップしている。事業の追い風は、45年ぶり五輪出場を決めた日本男子チームと、八村塁選手が日本人初のNBAドラフト1巡目でウィザーズに入団した明るいニュースだ。彼の年俸は約5億円、オフコートのスポンサー契約だけで約11億円と1人でB1平均営業収入を超える。ちなみに1993年スタートしたJリーグは昨季55クラブの全事業規模が約1200億円と、Bリーグの5倍となっている。

さて2020東京五輪が近づく大切な時期に新型コロナウイルスの影響で株式市場の混乱、移動制限、あらゆるスポーツ・イベント、ついには東京五輪も2021年7月に延期が決定された。50兆円規模の巨大産業として世界市場の3分の1を占めるスポーツビジネス大国アメリカもその感染者数が世界最多となり世界に衝撃を与えた。

規模こそ違いがBリーグも「苦渋の決断」として全60試合のうち20試合を残し4シーズン目の終了を発表した。まだまだ脆弱なクラブが多い中、スポンサー、入場者、飲食、物販の収入がなくなると、これまで地域密着で増収が続き、有望な投資先へと成長してきた事業にも大打撃だ。Bリーグ観戦を楽しむ私にとっては、人類がコロナウイルスに打ち克ち、当たり前のようにプロスポーツが放送される毎日、そしてプロアスリート、プロスポーツを支える企業の再生、なにより無事に東京五輪が開催されることを今はただ祈るばかりだ。



令和初優勝 2020年天皇杯表彰式